

第5回薬薬連携の会

第2部 意見交換会議事録

日時：令和元年11月26日（火）19：15-20：30

場所：多摩南部地域病院 第2会議室

1 病院と薬局の情報共有用紙使用にあたって

● 多摩南部地域病院による報告

- 『地域薬剤師との集いから誕生！オリジナルの情報共有用紙でお薬手帳をrank up!』
 - これまでの取組や情報共有用紙の使用法について、説明した。
 - 院内の報告会で最優秀賞を受賞した。
- 配布の実例紹介：入院中に起きた薬剤性肝機能障害の症例に使用した。

● 情報共有用紙について

- 腎機能の項目など日付を記載する欄があった方が良いのではないかと。
 - 腎機能の欄はCKDシールのような、注意喚起の意味合いであり、これが注意となっていれば、患者に検査値を見せてもらうなどの目印になればよい。
 - 具体的な検査値は処方箋に出す取組を進めていく方が良いのではないかと。
- 調剤上の注意の項目は、「理由」ではなく、備考としてはどうか。
 - 今後、改訂時に参考にしていく。
- どのような患者に使用したらよいか。
 - 認知機能の低下した方に本共有用紙が有用と感じる。
 - 院内の薬剤師には、入院中に副作用があった症例や慢性的に腎機能低下が認められる症例などエピソードのある症例を中心に該当1項目だけからでも積極的に使用するよう働きかけている。
- 地域の医師会などへの周知はしたか。
 - 現時点では行っていない。今後の使用状況により、南多摩薬剤師会より周知を検討する。
 - 多摩南部地域病院も、必要に応じて、地域連携室と連携をとっていく。
- 患者の緊急連絡先の項目があったほうが良いのではないかと。
 - 現段階では既存のお薬手帳の記載欄を利用いただく。
- 特に記載内容がなくても患者名のみ記載し利用して良いかと。
 - ぜひ利用いただきたい。情報作りの基盤を敷いていただきたい。

- （八王子市からご参加いただいた薬剤師より）認知度をあげて、さらなる改訂になげより良いものにしていただきたい。